

活動報告

化学工学会第 79 年会 国際シンポジウム 分離プロセス部会

「二酸化炭素の固定化・有効利用と分離技術」

"Fixation and effective utilization of carbon dioxide and separation techniques"

平成 26 年 3 月 19 日 於 岐阜大学

参加者 80 名

温室効果ガスの削減を目的として、二酸化炭素の固定化および有効利用に関する実用化研究が盛んに行われている。分離プロセス部会では、これらの研究の中でも、特に二酸化炭素を発生源から分離回収する技術開発や、モニタリング技術、二酸化炭素を固定化したバイオマスの有用物質への変換技術等の開発において広範囲に用いられている分離操作に注目した国際シンポジウムを第 79 年会において開催した。シンポジウムにおいては、2 名の海外からの招待講演者ならびに 3 名の国内からの依頼講演者に講演を頂いた。具体的なプログラムは以下の通りである。

【招待講演】

Geoff Stevens 先生 (オーストラリア、メルボルン大学)

Global Warming, Greenhouse Gases, Energy Usage and Separation Processes

Cho Churl Hee 先生 (韓国、忠南大学校)

Synthesis and Carbon Dioxide Permeation of NaY zeolite membrane

【依頼講演】

甲斐照彦先生 (地球環境産業技術研究機構)

CO₂ separation techniques for CCS

後藤元信先生 (名古屋大学)

Supercritical fluid technology for separation and material processing

松山秀人先生 (神戸大学)

CO₂ separation membranes containing reactive ionic liquids as a facilitated CO₂ transport media

メルボルン大学の Stevens 先生より、地球温暖化や温室効果ガスの現況についての講演があった。地球環境産業技術研究機構の甲斐先生より二酸化炭素の回収や貯蔵技術に関する講演があった。次に、名古屋大学の後藤先生より、二酸化炭素の有効利用方法の一つである超臨界液体を用いた研究開発の動向についての講演があった。休憩を挟んだ後、忠南大学校の Cho 先生より NaY ゼオライトをコーティングした膜の調製方法と二酸化炭素を中心とした気体分離に関する講演があった。最後に、神戸大学の松山先生より反応性イオン液体を含んだ膜を用いた二酸化炭素の促進透過に関する講演があった。

シンポジウムには、非常に多くの研究者が参加し、100 名程度の会場に立ち見が出たこともあった。また、質疑応答も非常に活発に行われ、分離プロセス部会あるいは化学工学会においても、二酸化炭素を巡る技術開発が、盛んに行われていることが伺えた。

講演を行っていただいた先生方、ご参加いただいた方々、ならびにご協力を賜った方々に御礼申し上げます。

北九州市立大学国際環境工学部 西浜章平



写真1 Geoff Stevens 先生の講演風景



写真2 Cho Churl Hee 先生の講演風景